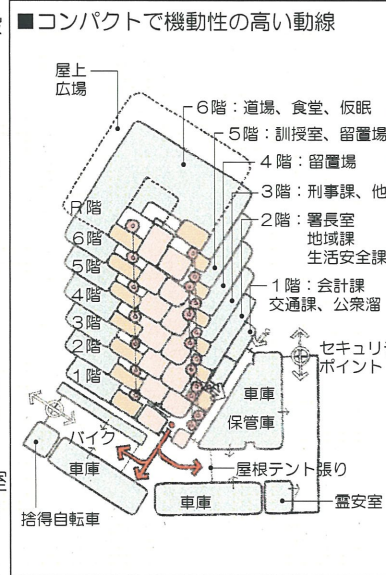
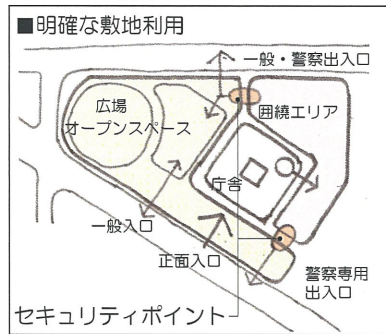


広島東警察署の施設整備は県民、地域住民のための「安全と安心」のシンボルづくりです。二葉の里、この立地に市民の心のランドマーク(芝生広場)を提案します

警察機能を発揮する施設計画

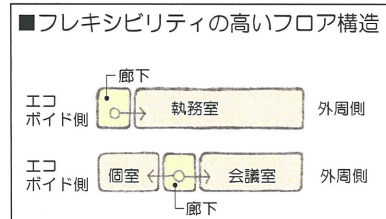
テロと災害に強い庁舎

- 正面入口に石のバリケード
 - 暴走車両の侵入や過激なデモなどから正面玄関を守ります、玄関は明るく見通しの良いデザインが求められ24時間常に見守られているという安心感は地域の方々にとってとても大切です。
- 警察車両と一般車両の明確な分離
 - 囲繞エリアと一般部分はセキュリティポイント2個所で明確に分離しそのエリアは庁内の二重動線(職員、被疑者、保護の必要な方動線)とも有機的につながります、車両出入口は前面道路側に2か所一般用と警察用、緑道側には1か所、一般と警察車両用の出入口を設け、前面道路の混雑や不都合時に対応し機動性を高めます。
- 災害や緊急時に活躍するオープンスペース
 - 敷地内に駐車場を含め広く開放されたオープンスペースを確保します、地域と密接につながる警察署として、また立地的観点からとても重要と考えました、災害時には救済基地、緊急ヘリポートなどに活用され市街地にある緑豊かなオープンスペースは県民、地域住民にとって安心感と安らぎを与えてくれます。



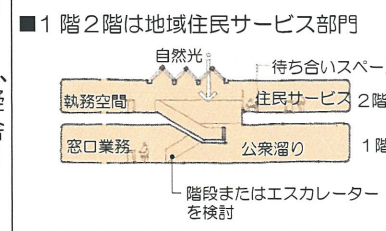
庁舎はコンパクトな6階建

- シンプルでフレキシブルな平面計画
 - 平面形は約30m×30mの正方形を基本として室内3.6mモジュールで構成します、中央にも正方形の外気吹き抜け(エコポイド)を設定します。この平面形で執務空間が外気に接する面がより大きく採光、通気、換気により利便となります、奥行11mの執務空間は廊下の位置を変えることで個室設定やオープンな執務室など自由な仕切りが可能です、中央のエコポイド回りに廊下を配置することで水平動線を短縮し執務室全体の占有率が高まります。



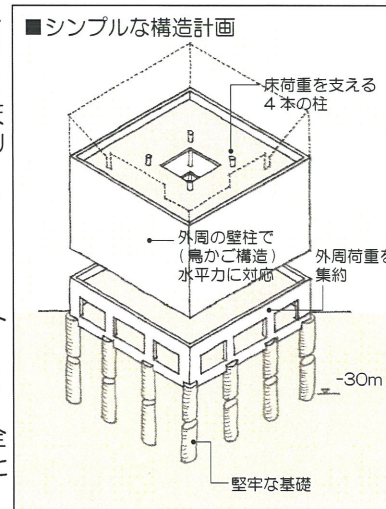
機動性を高めるエレベーター計画

- 警察署庁舎では職員などの動線が一般の方より多くなります、プライバシーの関係から水平移動よりエレベーターによる垂直移動が主体となります、オープンな一般用エレベーター1台、職員、被疑者、保護の必要な方用エレベーター2台が本庁舎の主動線となり高い機動性と管理の明確化が必要となります。



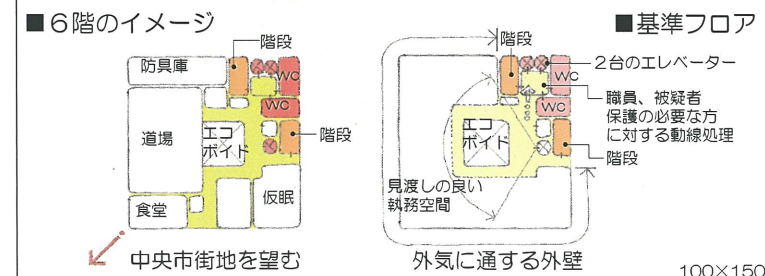
高い天井とエコポイドで明るい執務空間

- スケルトンインフィルの考え方の施設では長寿命化に向けて用途変更や更新対応に余裕ある階高が求められています、今回の提案では天井高さ2.8mとします、外気により多く接する建物で高い天井は自然換気や屋光の範囲拡大などで多くのメリットが生まれます、また下がり天井のないフラットな天井は間仕切変更や留置施設の設備更新に有利と考えます。



1階と2階で住民サービス

- 1階と2階は警察署の顔となる部分です エントランスホールを介して公衆溜り、相談コーナー、交通課、会計課、2階には地域課、生活安全課など県民、地域住民の日常的な対応スペースです、特に1階と2階をつなぐ吹き抜けには十分な安全対策とエスカレーターの設置が検討対象になると考えます。



- 警察の主要施設は3~5階
 - 3階は刑事課を中心とした部門となります、4階と5階の一部に配置する留置施設は2フロアの構成となります、運用形態に合わせたレイアウトが可能です。
- 最上階に職員厚生部門
 - 最上階には道場、食堂、仮眠など職員厚生部門を配置します、特に道場では緊急時職員の待機場所や多人数の宿泊にも対応できるものとして、食堂からは遠く中心市街地を望み職場のアメニティスペースとして活用できればと考えます、屋上階はデッキ床の多目的スペースとし屋外体操場など、エレベーターの利用で利用頻度が高まります。
- 地震に強い警察庁舎
 - 耐震安全性の分類Ⅱ類、重要度係数を重視
 - 官庁施設で大地震時、人命の安全確保と機能確保が求められている建物です、十分な耐荷重と耐震性に万全を尽くします。
 - 耐震壁付ラーメン構造で地震に強い建物
 - 大きな地震には壁を主体とした構造が合理的と言われていますが、警察庁舎はシンプルな平面構成と柱のない耐震壁を周囲にバランスよく配置し、より高い耐震性を確保します。
 - 深い支持層に信頼性の高い杭
 - 地盤は軟弱なシルト層が堆積しております、堅牢な支持地盤までは約30mとなります、正方形でバランスの良い建物は16本の信頼できる杭でしっかり支えます。

周辺環境との調和 新しい街並形成に参画する警察署

街区につながる100mの歩廊と芝生

- この立地は1街区の先端に位置し二葉の里「歴史文化の軸」の起点となる場所です、3方を道路に囲まれ緑道とつながるこの立地には警察庁舎だけでなく「誰にでも親しまれ記憶に残るような場所」が好ましいと思います、それは施設ではなく木々に囲まれた形のない広場が好ましいと考えます、歩道の高さより少し盛り上がりのある芝生です、又その一角には垂れ幕用のデザインされたタワーを設けることで広場が警察施設の一部であることを街区にアピールできます、警察署が持つ独特の立ち寄りがたさ、いかめしさがこの広場を通して和らぐことを期待します。



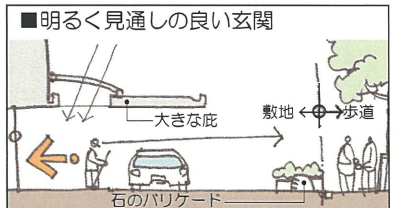
北側近隣に配慮した庁舎配置

- 区画整理事業で新しく生まれ変わる街区には「まちづくりガイドライン」を基により良い周辺整備が求められます、警察庁舎が周辺に与える影響として日陰、眺望、ビル風などを極力抑えます、北側近隣に対して建物をコンパクトにし可能な限り南側へ配置、歩道レベルでは積極的に常緑の高木を植えるなどの対応でガイドラインのモデルとなる周辺整備を行います。



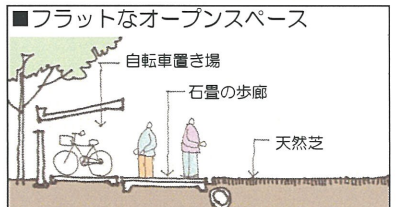
大きな庇で街区にヒューマンなスケールを展開

- 広場と庁舎を結ぶ大きな庇を設けます、この庇は日陰や雨宿りと同時に奥行きが少ない庁舎の玄関周りにヒューマンなスケールを創り出します、玄関へアプローチする人々やドアの前に立つ警察職員の方々にとってやさしい空間となるはずで、又この庇は2か所の駐輪場、身障者駐車場から雨天時のアプローチにもかかせないものとなります、高さは大型バスの通行を想定しています、庇下の路面は石畳とし限定車両(タクシー、来賓車輛)のみとし通常は歩行空間として活用されます、そしてその上部には大きなトップライトで明るい玄関回りを演出します。



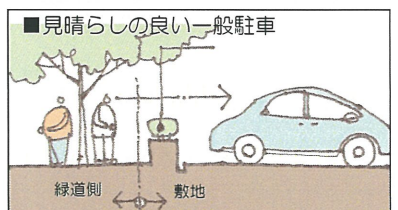
歴史の散歩道につながる街区のデザイン

- 芝生広場の周囲には常緑の高木を配置し二葉の里の緑道と一体化させ歴史と文化の通りにふさわしい緑地帯としての相乗効果を期待します、一般駐車場との境には高さを抑えた植込で周囲を見渡せるものとし、囲繞エリアとの仕切りは視線を遮り風通りの良い緑の扉を作り歴史の散歩道に対しいかめしさを排除します。



経済性の高い庁舎

- 総合的な環境負荷を低減
 - 断熱性能の高い材料、工法を積極的に採用します
 - 日射コントロールのしやすい高性能サッシュ、ガラスで開口部からの熱負荷の低減します
 - エネルギー損失を検証した建築と設備のシステムを採用します
- 省エネルギー計画
 - 施設の性格と運用形態の理解を深め初期段階より省エネルギー計画を作成、PALにより数値化し客観性を持って設計と運用に反映させる計画とします

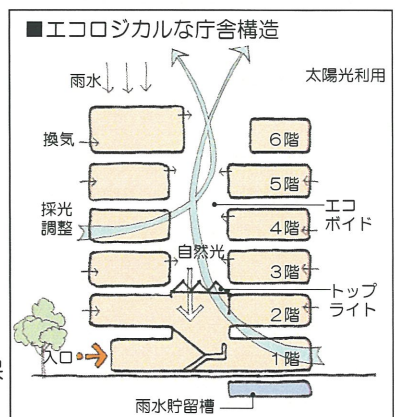
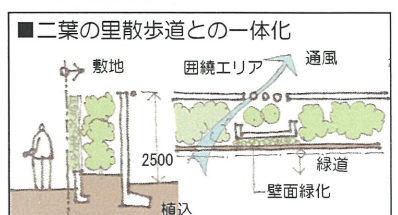


エネルギー・資源の有効利用

- 電力負荷の低減及び平準化が重要です
- 高効率照明器具の使用、目的諸室に応じた点灯方式の採用で照明エネルギーの最小化を図ります

ライフサイクルコスト

- 高性能機器の採用による節電対策
- 節水型衛生理器、機器の採用
- エコポイドを活用した自然換気と機械換気の制御システム
- 情報伝達システム更新に対応する機能拡張性を検証
- 将来の自然エネルギー活用に対する予備スペースの確保



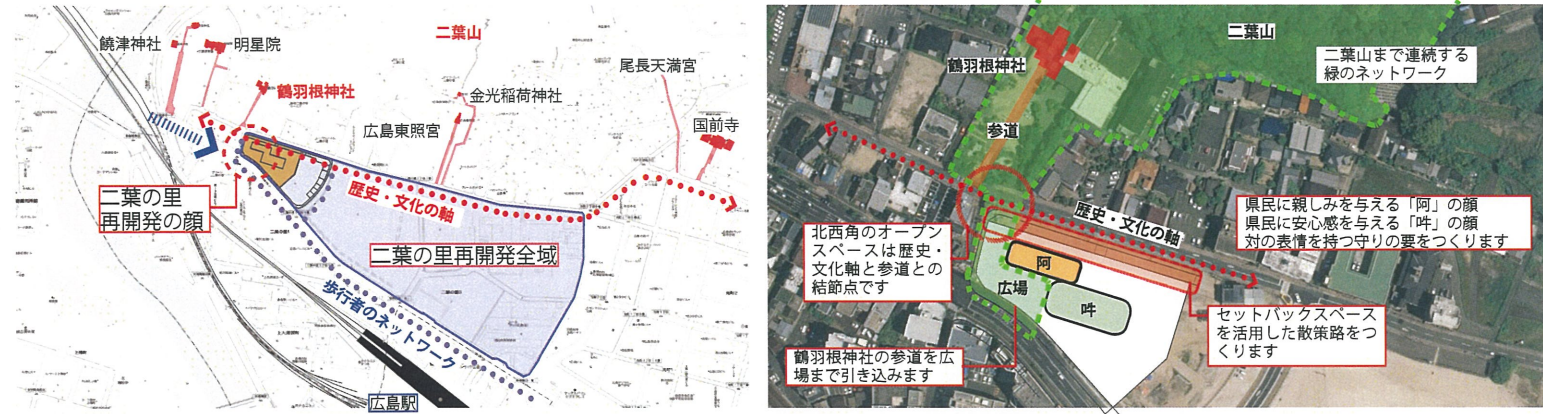
「周辺環境との調和」

■二葉の里に構える新たな守りの要「阿・吽」■

二葉の里に県民に親しみと安心感を与える新たな守りの要をつくります

■歴史・文化の軸、及び再開発の西端である敷地のポテンシャルを最大に活かして広島陸の玄関口の顔をつくります

- 二葉山のみもとには鬼門封じとして様々な寺社が建立され広島城を守ってきました。再開発の西端に県民の新たな守りの要をつくります。
- ガイドラインに示されている北西角のオープンスペースは、歴史・文化の軸と鶴羽根神社の参道が交わる賑わいが生まれる結節点です。敷地内にゆとりある広場をつくり、参道の緑を引き込み一体的に扱います。
- 二葉山まで連続する緑のネットワークをつくることにより、歴史・文化軸と歩行者ネットワークを活かした構成となります。
- 参道に構える県民に親しみを与える開かれた「阿」の顔と、高度な保安機能を持つ堅牢な「吽」の2つの顔を持つ守りの要をつくります。

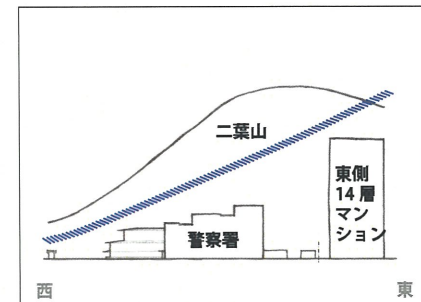


再開発の西端に新たな守りの要となる顔をつくります

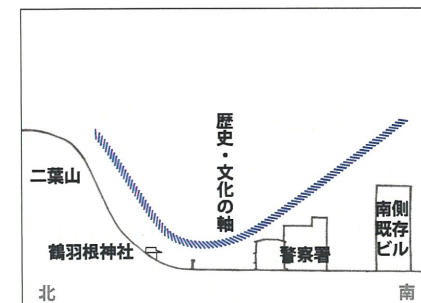
鶴羽根神社の参道を引き込み、「阿吽」の構えの守りの要をつくります

■「阿・吽」の対のボリューム構成により、敷地の特性、まちづくりガイドラインと呼応するスケール感のある街づくりを行います

- スパンの大きな道場と訓授室を北側へ配置し県民が利用しやすい構成とします。県民に親しみを与える「阿」の表情をうみ出します。
- 道場には鶴羽根神社と呼応する庇を回し、参道との連続感を高め、やさしい「阿」の表情を生み出します。
- 警察の執務スペースを南側へ配置し、県民を守る安心感のある堅牢な「吽」の表情を生み出します。均質な表情とすることで内部機能が外部からわからない意匠として、警察業務の秘匿性を高めます。
- 北側の鶴羽根神社、歴史・文化の軸と西側の住宅地へ向けて低く、東の業務、商業地区に向け高くなる二葉山と呼応するスカイラインをつくります。
- 道場には縁側を設け広場に向けて開放できるようにし、親しみやすい表情とします。必要に応じて一体利用を行い、街に賑わいを生み出します。



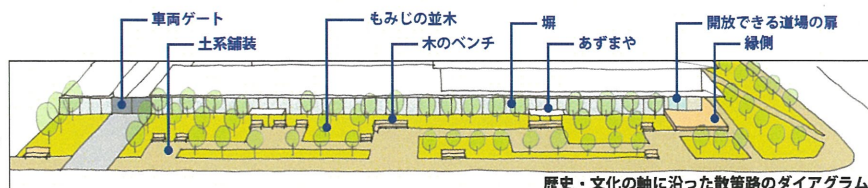
二葉山となじみ、東側へ大きくなるスカイライン (ボリューム構成)



北側の歴史・文化の軸と鶴羽根神社に対して低くなるスカイライン (ボリューム構成)

■歴史・文化の軸に新たな名所をつくります

- 歴史・文化の軸に沿ってセットバックスペースを積極的に活用し、広島県の県花である「もみじの並木」を整備し、来街者が散策を楽しめる「新たな名所」をつくり賑わいをうみだします。
- 広島伝統工芸である「もみじ紋の御砂焼」をモチーフに、ランドスケープの塀や床にアクセントして使用します。
- 土系舗装や木のベンチで歩行者にやさしい散策路をつくり、ゆっくり散策し、木陰で休むとこのできる歴史・文化の軸の要所となります。



「県民の期待に応える警察機能発揮のための施設整備」

■二つの顔「阿・吽」が支える県民のための守りの要■

県民に開き、県民を守る親切で安全な24時間稼働する警察署をつくります

■県民が利用する「開くエリア」「阿」と秘匿性の高い警察業務のための「守るエリア」「吽」に明快に分離します

「開くエリア」「阿」

- エントランスホールが広場に面する、分りやすいアプローチ計画とします。県民と警察官の動線を明快に分離します。
- 道場は「開くエリア」「阿」の核として、広場に面する1階に設置します。縁側をつけることで広場と一体利用が可能です。
- 各種許認可を受けるための交通課をはじめとする来庁機能を1階に、生活安全課を2階に配置し、コンパクトな縦動線で結びます。利用する県民に親切で分かりやすい施設構成とします。
- 訓授室も交通安全教室等で県民が講習等に利用できるように、開放可能な構成とします。
- 食堂を2階に設置します。来庁者も利用できるようにし、交番のように身近に警察官と交流ができる場所とします。
- 災害時には訓授室を災害対策本部として、道場を災害対策支援スペースとして利用し、警察業務の非常体制として使用します。

「守るエリア」「吽」

- 来庁機能の少ない警察業務に係る諸室を「守るエリア」「吽」に明確に分離します。コンパクトに積み重ねることで効率的で使いやすい施設とします。秘匿性の高い機能を上階に配置します。
- 秘匿性の高い業務を24時間円滑に遂行させるため、県民の動線と明確に分離します。
- 緊急時に東5区常盤橋若草線(二葉通り)と東5区6号線(歴史・文化の軸)の両側へ機動的に警察車両が出動できる配置とします。
- 「守るエリア」「吽」の建物のファサードは堅固な表情とし、内部の機能が直接外部から分からないデザインとします。
- 内部執務空間は見通しの利く、わかりやすい配置とします。

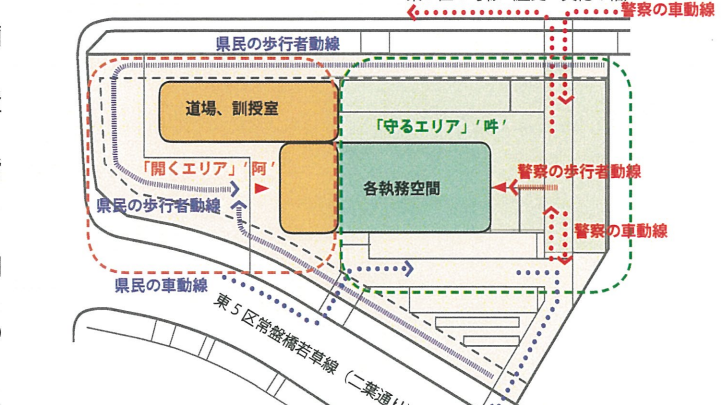
「分離ゾーニングを活かした、設備・構造計画」

- 明快なゾーン分けによりそれぞれ専用の効率的な縦動線と設備システムを設けます。
 - 幹線の二重化システムを容易に実現し、将来の改修、更新にも柔軟に対応できます。
 - 室外機の分散配置により、配管の横引き距離を短くしコスト削減に貢献します。
 - 純ラーメン構造とし、将来のプラン変更、設備更新に柔軟に対応します。デッキスラブの採用等建物の軽量化を検討し、構造コストの軽減を積極的に検討します。
- 災害時に警察業務を継続する、BCP(事業継続計画)を実現します
- 受変電キュービクル、自家発電装置を水没しない2階以上へ設置します。
 - 飲料水兼用の貯水タンクの設置及び排水貯留槽を設置します。
 - 非常用コンセントを設置し、必要なエリアの照明確保/通信設備の電源確保を行います。
 - 太陽光発電連携蓄電池システムの設置を行い、必要な電力の補完を行います。(道場等を災害時支援施設として使用する際など)
 - マンホールトイレ、防災倉庫を設置します。
 - 可搬式発電装置(カセットボンベ等)からの非常用コンセントを用意します。
 - 食堂を警察官のために炊き出しを行う炊事場として利用します。

■24時間稼働する施設を支える省エネ設備技術を駆使します

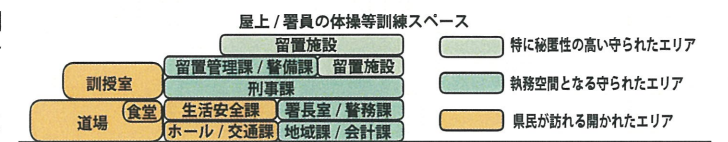
- 昼光センサー制御による自然光利用、LED利用と回路の細分化により照明コストを削減します。
- 人感センサー、換気機器の自動発停制御、高効率機器の積極採用及び室内CO2濃度センサーによる局所制御を行い、空調の効率化を行います。
- 個別空調方式による省電力化と全熱交換器ユニットによる室内冷暖房機器の小型化を行います。
- モジュール型の機器ユニット設置による台数制御運転の実施、故障時のバックアップを確保します。

「開く「阿」のエリアと守る「吽」のエリアを明快に分離する構成」
(県民と警察の明確な動線分離)



緊急時には歴史・文化の軸と二葉通り双方向に緊急車両が出動する配置計画とします。

(コンパクトに移動距離をまとめる断面構成)



(「開かれ」「守られる」空間の組み合わせと各執務室のゾーニング構成)

